

平成24年度 第2回 太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁海況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター
中央水産研究所がとりまとめた結果 －

今後の見通し(平成25年1月～6月)のポイント

海況

黒潮は、1月はC型でその後N型となり、3月以降B・C型となる。沿岸水温は、潮岬以西が「平年並」～「低め」、熊野灘～伊豆諸島北部海域が概ね「平年並」～「低め」、鹿島灘～常磐南部海域が「平年並」～「やや高め」で推移する。

- ※ N型：非大蛇行接岸流路（流路の南端が北緯33度以北）
- B型：非大蛇行接岸流路（流路の南端が北緯32度以北かつ33度以南）
- C型：非大蛇行離岸流路
- ※ 平年並＝平年値±0.5℃程度、やや高め＝平年値+1.0℃程度、
高め＝平年値+1.5℃程度、低め＝平年値-1.5℃程度

漁況(来遊量予測)

マサバ・ゴマサバ

紀伊水道外域以西は前年を下回る。熊野灘は前年並～下回る。伊豆諸島以北は前年並。

マアジ

低水準の前年並～下回る。

マイワシ

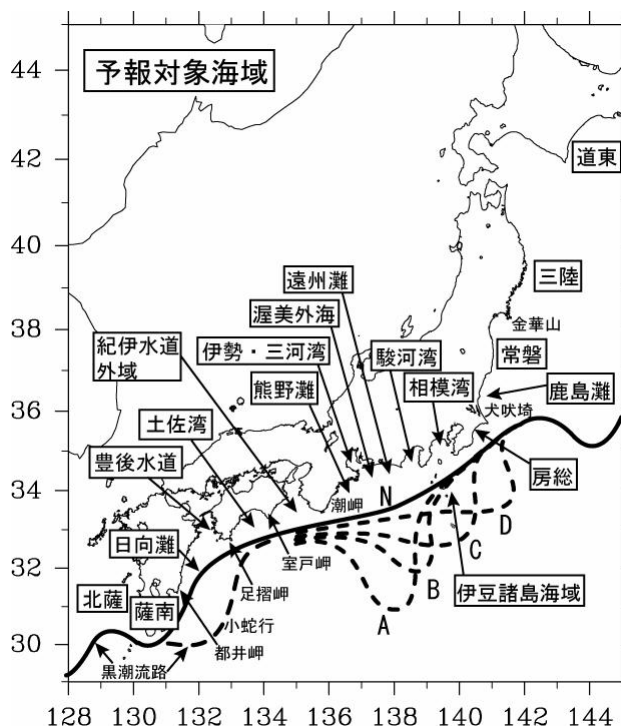
1歳魚が主体で、熊野灘以西で前年を下回り、伊勢・三河湾以東で前年並～下回る。

カタクチイワシ

土佐湾以西では前年並～上回る。
熊野灘以東では前年並～下回る海域が多い。

ウルメイワシ

豊後水道南部以西では前年並～上回り、
土佐湾以東では前年並～下回る。



問い合わせ先

水産庁 増殖推進部 漁場資源課

担当：沿岸資源班 新村、中津

電話：03-3502-8111(内線6800)、直通電話：03-6744-2377、ファックス：03-3592-0759

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/>

(予報の詳細についてのお問い合わせ先)

独立行政法人水産総合研究センター 中央水産研究所 業務推進部

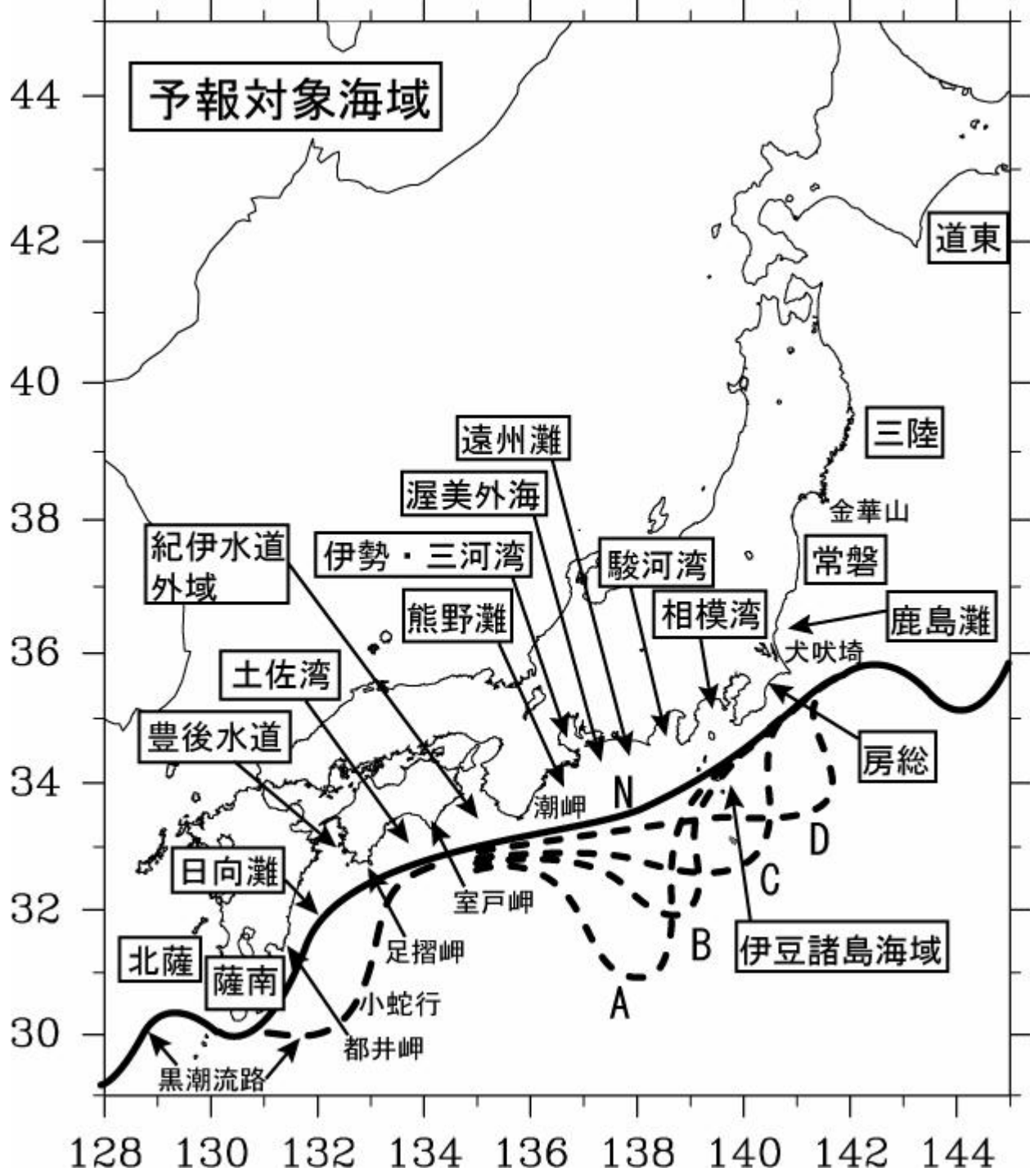
担当：市橋、生田

電話：045-788-7615、ファックス：045-788-5001

当資料のホームページ掲載先URL

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

<http://nrifs.fra.affrc.go.jp/>



中央ブロック海況予報

今後の見通し（2013（平成25）年1月～6月）

(1) 黒 潮 （注：黒潮流型は図1を参照のこと。）

◎潮岬以西

- ・都井岬沖では、2月までは離岸傾向で、3月～4月は接岸傾向となる。5月以降は小蛇行が形成され離岸傾向となる。
- ・足摺岬～潮岬沖では、接岸傾向であるが、1月～2月に小蛇行の東進により一時的に離岸する。

◎潮岬以東

- ・1月はC型が継続し、その後N型となる。3月以降はB・C型で推移する。
- ・房総沖では、1月～2月に冷水域が通過し、離接岸変動がある。

(2) 薩南～房総沿岸域

- ・潮岬以西では、黒潮の離接岸に伴って一時的に暖水が波及することがある。
- ・潮岬以東では、熊野灘～遠州灘～伊豆諸島北部海域は、概ね冷水域に入る。黒潮流路の変動に伴い、内側域への一時的な暖水波及がある。
- ・伊豆諸島南部海域は、概ね冷水に覆われる。2月以降は黒潮流路変動に伴い暖水域に入ることがある。

(3) 鹿島灘～常磐南部海域

- ・沿岸域へ一時的に暖水が波及することがあり、冷水の波及は少ない。

(4) 沿岸水温

- ・潮岬以西は「平年並」～「低め」で推移する。小蛇行の東進に伴い変動する。
- ・熊野灘～遠州灘～伊豆諸島北部海域は、「平年並」～「低め」で推移する。暖水波及時には「高め」となる。
- ・伊豆諸島南部海域は、「平年並」～「低め」で推移する。黒潮流路がN・B型になったときは、「平年並」～「高め」となる。
- ・房総沿岸域は、「平年並」～「やや高め」で推移する。
- ・鹿島灘～常磐南部海域は、「平年並」～「やや高め」で推移する。

※ 平年並＝平年値±0.5℃程度、（やや高め、やや低め）＝平年値±1.0℃程度、
（高め、低め）＝平年値±1.5℃程度、（極めて高め、極めて低め）＝平年値±2.5℃以上

経過（2012年8月～12月）（注：経過は図2を参照のこと。）

(1) 黒潮

- ・6月下旬以降、N型基調で推移した。
- ・11月中旬にB型となり、12月上旬にはC型になった。

(2) 薩南～房総沿岸域

◎薩南海域

- ・7月、黒潮北縁は接岸傾向で推移した。
- ・8月～9月、黒潮北縁は屋久島南付近の平均的な位置で推移した。
- ・10月、黒潮北縁は接岸傾向で推移した。
- ・11月、黒潮北縁は屋久島南付近の平均的な位置で推移した。

◎潮岬以西

- ・8月中旬、都井岬沖には小蛇行が存在し、「かなり離岸」となった。
- ・9月、都井岬沖の小蛇行の一部が東進し、都井岬沖では「やや離岸」となった。
- ・9月下旬～10月中旬、都井岬沖の小蛇行の一部が東進し、足摺岬沖～潮岬沖を通過した。
- ・10月、都井岬沖では小蛇行が発達し、「かなり離岸」となった。
- ・11月下旬、都井岬沖の小蛇行の一部が東進し、都井岬沖では「やや離岸」となった。

◎潮岬以東

- ・8月～11月、熊野灘～駿河湾は、概ね冷水域に入っていた。
- ・9月上中旬、伊豆諸島北部から相模湾へ暖水が波及した。
- ・9月下旬、相模湾～駿河湾へ暖水が波及し、10月上旬に熊野灘へ達した。
- ・10月中旬、熊野灘へ暖水が波及し、下旬に遠州灘沖合へ達した。
- ・8月～11月中旬、伊豆諸島南部海域は概ね暖水域にあったが、12月上旬には冷水域に入った。
- ・野島崎沖での黒潮は、概ね接岸傾向で推移したが、8月中旬、11月上旬に一時的に離岸した。

(3) 鹿島灘～常磐南部海域

- ・8月～9月、沖合域には暖水が波及したが、沿岸域では暖水の影響が弱かった。
- ・10月上旬、台風17号、19号の通過により鉛直混合が顕著に起こった。
- ・11月、弱まったものの暖水の影響があった。

現況（2012年12月14日現在）

(1) 黒潮

- ・C型流路で推移している。

(2) 薩南～房総沿岸域

◎薩南海域

- ・黒潮北縁は接岸傾向で推移している。

◎潮岬以西

- ・黒潮は、都井岬～室戸岬で「やや離岸」、潮岬で「接岸」している。

◎潮岬以東

- ・熊野灘～遠州灘は概ね冷水域にある。
- ・伊豆諸島南部海域も黒潮の北の冷水域にある。
- ・野島崎沖で黒潮は概ね接岸している。

(3) 鹿島灘～常磐南部海域

- ・「平年並」で推移している。

※ 黒潮の離接岸に関する語句表記は、川合英夫(1972)：海洋物理Ⅱ、東海大学出版会に準じた。

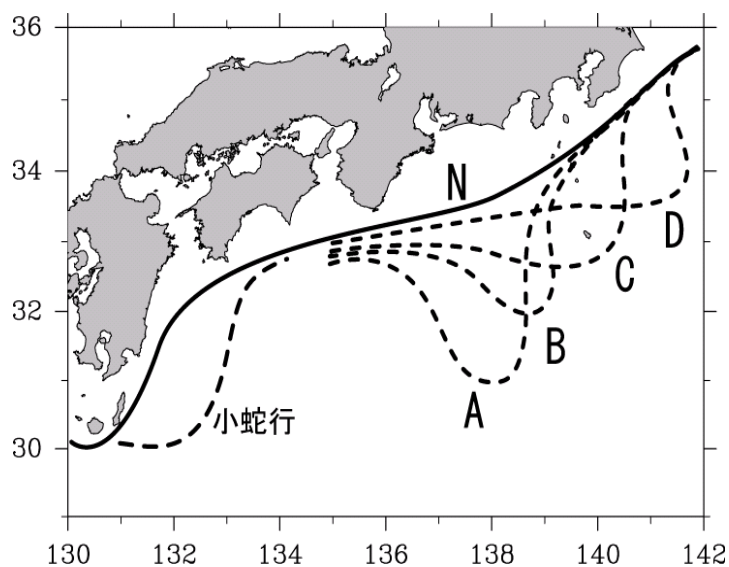


図1 黒潮流型の分類

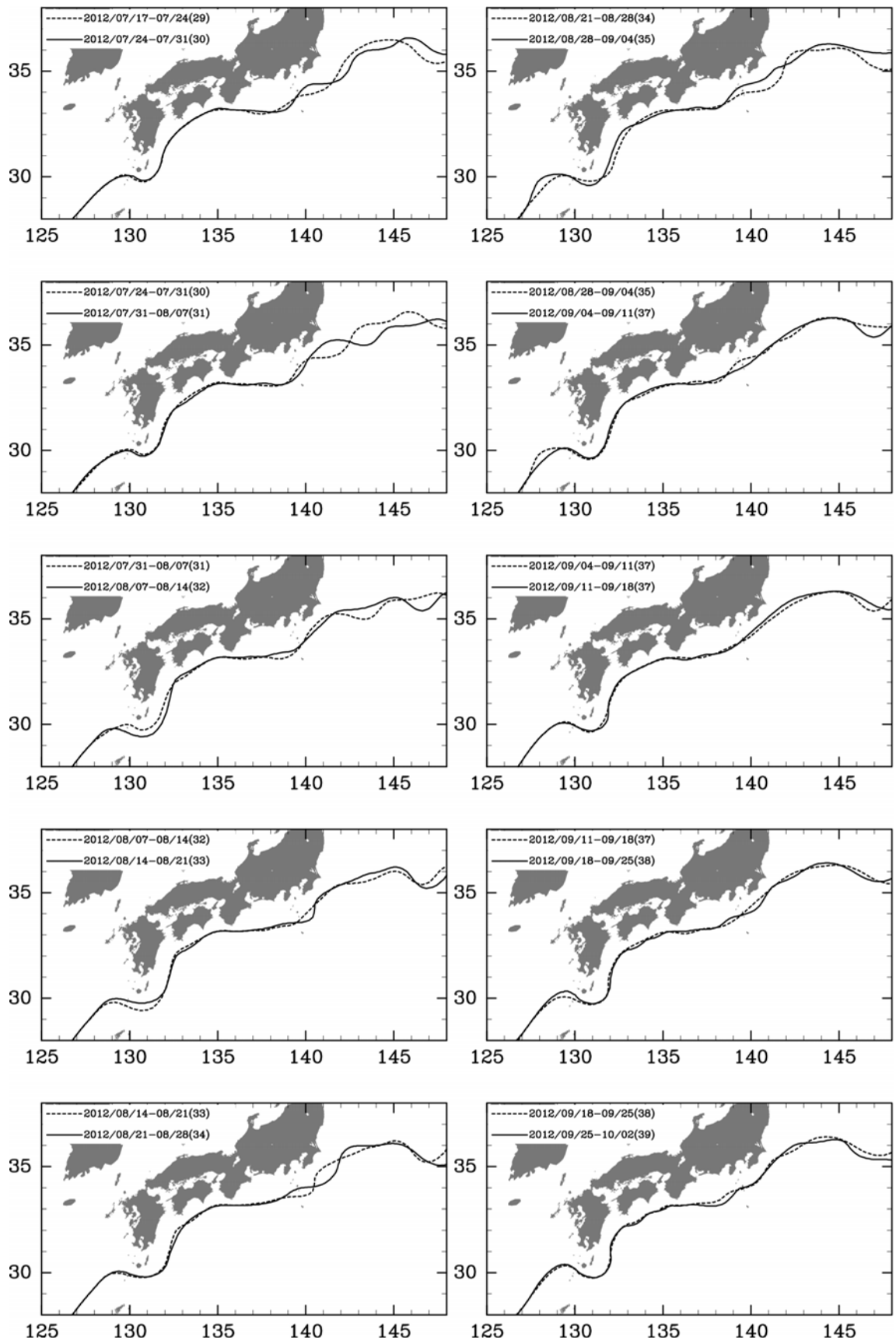


図2 黒潮流軸のパターン

(2012年7月~12月、海上保安庁海洋情報部海洋速報より作成)

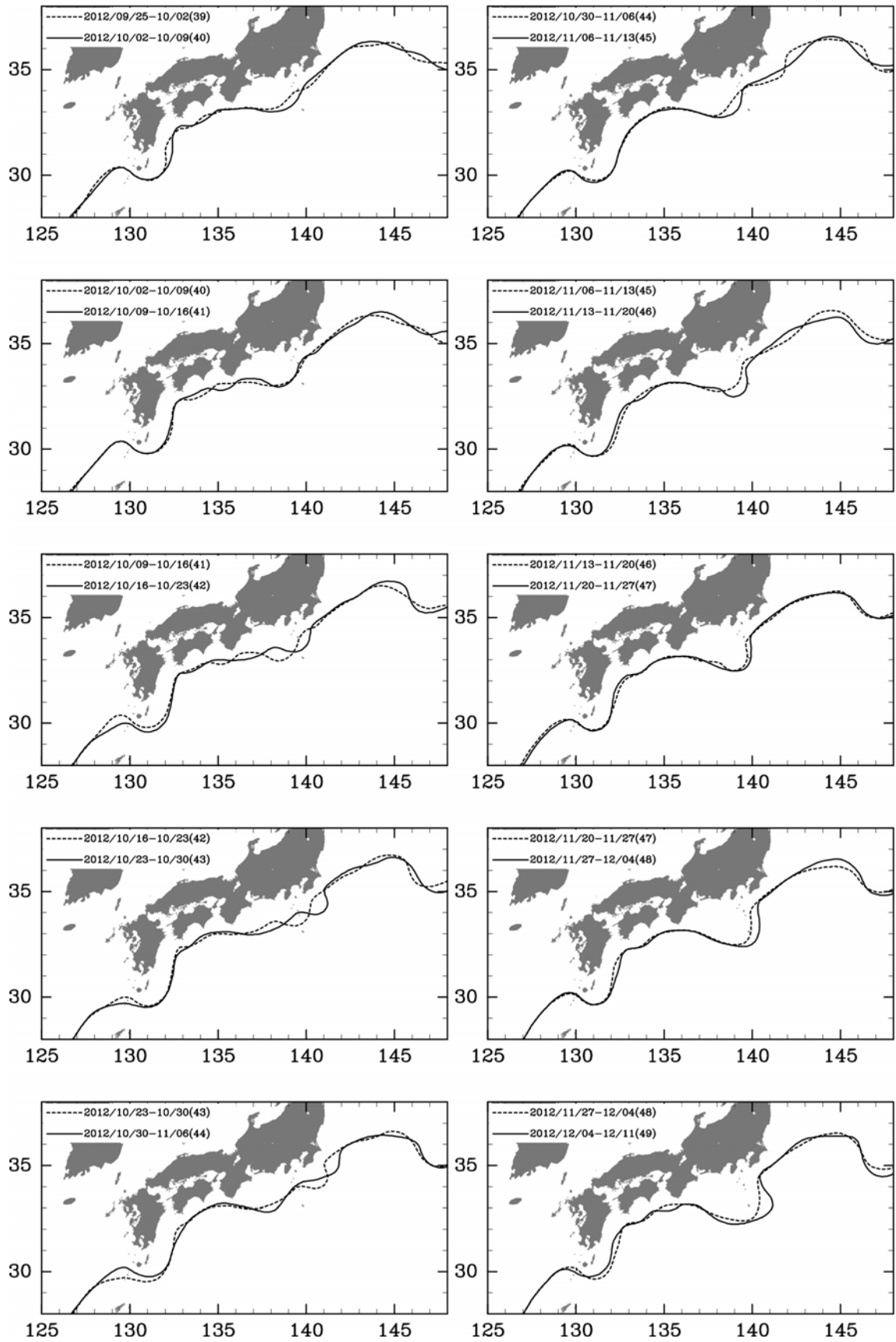


図2 (続き) 黒潮流軸のパターン

(2012年7月~12月、海上保安庁海洋情報部海洋速報より作成)

マサバおよびゴマサバ太平洋系群等の漁況予報

今後の見通し（2013（平成25）年1月～6月）

対象海域：薩南～豊後水道南部、紀伊水道外域、熊野灘、伊豆諸島周辺海域、犬吠～三陸海域

対象漁業：まき網、定置網、棒受網、たもすくい

対象魚群：1歳魚（2012（平成24）年級群）、2歳魚（2011（平成23）年級群）、3歳魚（2010（平成22）年級群）、4歳（2009（平成21）年級群）以上。年初に加齢。魚体は尾叉長。

1. 薩南～豊後水道南部（まき網、定置網）

(1) 来遊量：マサバは低水準。ゴマサバ1歳魚は前年並～下回る。2歳魚は前年を下回る。3歳魚は前年を下回る。4歳魚は前年を上回る。サバ類全体としては、前年を下回る。

(2) 漁期：期を通じて漁獲される。

(3) 魚体：ゴマサバが主な漁獲対象となる。薩南では31cm～36cm（3歳魚、4歳魚）。日向灘では34cm～35cm前後（4歳魚）主体。豊後水道南部では25cm～29cm前後（1歳魚）主体。

2. 紀伊水道外域（まき網、定置網）

(1) 来遊量：マサバは低水準。ゴマサバ1歳魚は前年を上回る。2歳魚は前年を上回る。3歳魚は前年を下回る。4歳魚は前年を上回る。サバ類全体としては前年を下回る。

(2) 漁期：期を通じて漁獲される。

(3) 魚体：ゴマサバが主な漁獲対象となり、28cm～38cm（1歳魚～4歳魚）。マサバは30cm～40cm（主に3歳魚、4歳魚）主体。

3. 熊野灘（まき網、定置網）

(1) 来遊量：マサバは3歳魚、4歳魚主体に前年を上回る。ゴマサバ1歳魚は前年を下回る。2歳魚は前年を上回る。3歳魚は前年を下回る。4歳魚は前年を上回る。ゴマサバとしては前年を下回る。サバ類全体としては前年並～下回る。

(2) 漁期：期を通じて漁獲される。

(3) 魚体：ゴマサバが主な漁獲対象となり、29cm～36cm（2歳魚～4歳魚）主体に、29cm以下（1歳魚）も漁獲される。マサバは30cm～40cm（主に3歳魚、4歳魚）および30cm以下（1歳魚）。

4. 伊豆諸島周辺海域（棒受網、たもすくい）

(1) 来遊量：マサバ2歳魚は前年を下回る。3歳魚は前年を下回る。4歳魚は前年を大きく上回る。マサバとしては前年並。ゴマサバ1歳魚は前年並。2歳魚は前年を上回る。3歳魚は前年並。ゴマサバとしては前年を上回る。サバ類全体としては前年並～上回る。

(2) 漁期・漁場：伊豆諸島北部海域にマサバ主体の漁場が形成される。ゴマサバは期を通じて三宅島周辺海域が主漁場となるが、マサバに混獲される場合は伊豆諸島北部海域にも漁場が形成される。

(3) 魚体：マサバは32cm～37cm（3歳魚、4歳魚）主体に27cm～32cm（2歳魚）も漁獲される。ゴマサバは24cm～31cm（2歳魚、1歳魚）主体に30cm～34cm（3歳魚）も漁獲される。34cm以上（4歳以上）も混じる。

5. 犬吠～三陸海域（まき網、定置網）

(1) 来遊量：マサバ1歳魚は前年を上回る。2歳魚は前年を下回る。3歳魚は前年を下回る。4歳以上は前年を上回る。マサバとしては前年並。ゴマサバとしては少なかった前年を上回る。サバ類全体としては前年並。

(2) 漁期・漁場：まき網では犬吠海域～鹿島灘で期を通じて漁獲される。三陸海域の定置網では6月以降漁獲される。

(3) 魚体：マサバは25cm前後（1歳魚）主体に32cm以上（主に3歳魚、4歳魚）も漁獲される。ゴマサバは25cm～38cm（1歳魚～4歳魚）が漁獲される。

漁況の経過（2012年7月～11月）および見通し（2013年1月～6月）についての説明

1. 資源状態

(1) マサバ

資源量は1990年代以降低い水準にあるが増加してきている。

2008年級群（5歳魚）以上の残存資源量は少ない。

2009年級群（4歳魚）は、8月時点の資源評価（コホート解析）による推定加入尾数が26億尾であり、加入量水準は近年では高い。これまで各地の漁獲物の主体となっており、道東海域でもまとまった漁場を形成した。残存資源量は近年の4歳魚としては多い。

2010年級群（3歳魚）は、推定加入尾数が16億尾であり、近年では比較的高い水準と推定され、これまで2009年級群とともに各地の漁獲物の主体となっている。6月～10月の三陸～道東海域流し網調査（釧路水試）や9月～10月の秋季北西太平洋中層トロール調査（中央水研）でも漁獲が見られ、漁場外の沖合域にも多く分布していた。残存資源量は近年の3歳魚としては比較的多い。

2011年級群（2歳魚）は、これまで各地で漁獲がみられているが少ない。三陸～道東海域流し網調査のCPUEは34.1尾/回であり、1994年以降の同調査で4番目に高かった。秋季北西太平洋中層トロール調査では漁獲はごく少なかった。加入尾数は、近年では比較的低い水準の7億尾と推定される。

2012年級群（1歳魚）は、これまでまき網漁業で漁獲がみられている。8月時点の資源評価では、5月～7月の調査船調査の結果から加入尾数を19億尾と推定した。三陸～道東海域流し網調査のCPUEは3.2尾/回であり、1994年以降の同調査において比較的低い水準であった。秋季北西太平洋中層トロール調査の出現率は61.5%、平均CPUEは9.5尾/網であり、2001年以降の同調査で高い値であった。不確実性は高いが、加入量は近年では比較的高い水準と判断される。

(2) ゴマサバ

資源量は1990年代後半以降高い水準にある。0歳時に黒潮一親潮移行域を回遊して加入する群が資源の主な部分を占めるようになっている。

2009年級群（4歳魚）は、8月時点の資源評価（コホート解析）による推定加入尾数が20億尾であり、加入量水準は高い。これまで各地の漁獲物の主体となっている。

2010年級群（3歳魚）は、推定加入尾数が14億尾であり、近年では比較的高い水準と推定される。これまで各地の漁獲対象となっているが、西日本では少ない。三陸～道東海域流し網調査や秋季北西太平洋中層トロール調査でも漁獲が見られ、漁場外の沖合域でも分布が確認された。

2011年級群（2歳魚）は、これまで各地で漁獲がみられている。三陸～道東海域流し網調査のCPUEは8.6尾/回であり、1994年以降の同調査で6番目に高かった。秋季北西太平洋中層トロール調査では漁獲はごく少なかった。静岡県棒受網CPUEによる資源密度指数（静岡水技研、0歳時累計値）は2,893であり、2009年級群（16,782）、2010年級群（3,696）を下回った。加入尾数は9億尾で近年の中位水準と推定される。

2012年級群（1歳魚）は、これまで各地で漁獲がみられている。8月時点の資源評価では、5月～7月の調査船調査の結果から加入尾数を16億尾と推定した。三陸～道東海域流し網調査のCPUEは1.3尾/回であり、1994年以降の同調査において低い水準であった。秋季北西太平洋中層トロール調査の出現率は30.8%、平均CPUEは5.6尾/網であり、2001年以降の同調査で比較的高い値であった。静岡県棒受網CPUEによる資源密度指数（0歳時11月までの累計値）は、2009年級群を下回るものの2010年級群、2011年級群を上回っている。不確実性は高いが、加入量は近年では比較的高い水準と判断される。

2. 来遊量、漁期・漁場、魚体

1) マサバ

(1) 来遊量

資源状態の項で述べた通り、これまで得られている情報から、1 歳魚（2012 年級群）は近年では比較的高い加入量水準と判断され、来遊量は前年を上回る。2 歳魚（2011 年級群）は近年では比較的低い加入量水準であり、来遊量は前年を下回る。3 歳魚（2010 年級群）は近年では比較的高い加入量水準であり、来遊量は前年 3 歳魚（2009 年級群）を下回るが、近年の 3 歳魚としては比較的多い。4 歳魚（2009 年級群）は近年では高い加入量水準であり、残存資源量は近年の 4 歳魚としては多く、来遊量は前年を上回る。5 歳（2008 年級群）以上は少ない。マサバ全体としては前年並。熊野灘以西の海域では、来遊量は少なく、サバ類に占めるマサバの割合は低い。

(2) 漁期・漁場、魚体

まき網漁場は、7 月までは犬吠海域、8 月～10 月上旬は三陸北部海域、10 月中下旬は三陸北部～南部および鹿島灘～犬吠海域、11 月は金華山周辺および鹿島灘～犬吠海域に形成された。さらに、8 月中旬～10 月中旬には道東海域で 6 年ぶりにまとまった漁場が形成された。7 月～11 月の犬吠以北海域におけるまき網による漁獲量は 5.3 万トンと前年同期（2.5 万トン）を上回った。千葉県以北の定置網による漁獲量は 8.3 千トンと前年同期（1.3 千トン）を上回った。伊豆諸島以西の海域ではゴマサバに混獲される程度で漁獲量は 0.6 千トンであった（漁獲量は各地主要港水揚げ資料および水揚げ物標本測定結果等からの推定値）。

犬吠以北海域では、本予測期間は鹿島灘～犬吠海域が主漁場となると考えられる。伊豆諸島周辺海域では、漁場形成は黒潮流路変動に強く影響される。黒潮流路は、1 月は C 型が継続し、その後 N 型、3 月以降は B・C 型で推移すると予測されており、集群や漁場形成を妨げる状況にはないとみられる。北部海域（大室出しから利島、ヒョウタン瀬）が主漁場となり、銭洲および三宅島周辺でも漁場が形成される可能性がある。熊野灘～紀伊水道外域ではマサバ主体の漁場形成もみられる。豊後水道南部～薩南ではゴマサバに混獲される程度となる。

年齢別尾叉長は、これまでの体長組成の推移、年齢査定の結果から概ね次の通りである。1 歳魚

（2012 年級群）：30cm 以下、2 歳魚（2011 年級群）：28cm～32cm、3 歳魚（2010 年級群）：32cm～34cm、4 歳魚（2009 年級群）：34cm～38cm、5 歳（2008 年級群）以上：36cm 以上。

2) ゴマサバ

(1) 来遊量

資源状態の項で述べた通り、これまで得られている情報から、1 歳魚（2012 年級群）は比較的高い加入量水準と判断され、来遊量は前年を上回る海域が多い。2 歳魚（2011 年級群）は近年では中位の加入量水準であり、来遊量は少なかった前年を上回る。3 歳魚（2010 年級群）は比較的高い加入量水準と推定されており、伊豆諸島以北での来遊量は 3 歳魚としては比較的多いが、西日本ではこれまでの来遊状況からみて少ない。4 歳魚（2009 年級群）は高い加入量水準であるが、残存資源量は少なくなっている。ゴマサバ全体としては前年並～下回る。

(2) 漁期・漁場、魚体

7 月～11 月の漁況は、薩南～熊野灘の各海域では、0 歳魚（2012 年級群）～3 歳魚（2009 年級群）を対象に前年を下回った。駿河湾周辺のまき網では前年を下回った。伊豆諸島周辺海域では 1 歳魚（2011 年級群）主体で 0 歳魚～3 歳魚を対象に前年を下回った。犬吠以北海域のまき網では、1 歳魚～3 歳魚が漁獲された。7 月～11 月の漁獲量は、薩南～紀伊水道外域は 0.8 万トン（前年同期実績 2.3 万トン）、熊野灘～伊豆諸島周辺海域は 1.9 万トン（同 2.4 万トン）、犬吠以北海域はまき網が 3.5 万トン（同 4.8 万トン）、定置網などが 0.3 万トン（同 0.6 万トン）であった（漁獲量は各地主要港水揚げ資料および水揚げ物標本測

定結果等からの推定値)。

本予測期間における各地の漁期・漁場および魚体は、薩南では3歳魚(2010年級群)、4歳魚(2009年級群)主体に、日向灘では4歳魚主体に、豊後水道南部では1歳魚(2012年級群)主体に、紀伊水道外域～熊野灘では1歳魚～4歳魚を対象に、期を通じて漁場が形成される。伊豆諸島周辺海域では、2歳魚、1歳魚主体に3歳魚も対象に期を通じて近年の主漁場である三宅島周辺海域を中心に漁場が形成される。犬吠以北海域では、1歳魚～4歳魚が犬吠海域～鹿島灘で漁場が形成される。

年齢別尾叉長は、これまでの体長組成の推移、年齢査定の結果から概ね次の通りである。1歳魚(2012年級群)：30cm以下、2歳魚(2011年級群)：29cm～32cm、3歳魚(2010年級群)：30cm～34cm、4歳(2009年級群)以上：32cm以上。

マアジ太平洋系群等の漁況予報

今後の見通し（2013（平成25）年1月～6月）

対象海域：北薩～熊野灘、相模湾

対象漁業：まき網、定置網

対象魚群：0歳魚（2013（平成25）年級群）、1歳魚（2012（平成24）年級群）、2歳魚（2011（平成23）年級群）、3歳（2010（平成22）年級群）以上。年初に加齢。魚体は尾叉長。

1. 北薩～土佐湾（まき網、定置網）

(1) 来遊量：前年を下回る。

(2) 魚体：15cm～22cmの1歳魚が主体となる。期の後半に加わる0歳魚は13cm以下。

2. 紀伊水道外域～熊野灘（まき網、定置網）

(1) 来遊量：前年並の低水準。

(2) 魚体：紀伊水道外域西部および熊野灘では15cm～22cmの1歳魚が主体となる。紀伊水道外域東部では20cm～30cmの1歳魚～3歳魚が主体となる。期の後半に加わる0歳魚は13cm以下。

3. 相模湾（定置網）

(1) 来遊量：前年並の低水準。

(2) 魚体：15cm～22cmの1歳魚が主体となる。期の後半に加わる0歳魚は13cm以下。

漁況の経過（2012年8月～11月）および見通し（2013年1月～6月）についての説明

1. 資源状態

資源量は1980年代後半に増加し、1990年代半ばは15万トン～16万トンと高い水準で推移したが、1997年からは減少に転じ、2001年に一時的に増加したものの、2005年以降は減少が続いている。2012年1月時点の資源水準は中位、動向は減少と判断されている。

2010年級群（3歳魚）以上の残存資源量は少ない。

2011年級群（2歳魚）は、2011年10月に宮崎県および三重県でそれぞれ1,000トンを超える漁獲がみられるなど、0歳魚として比較的まとまった漁獲がみられ、1歳魚としての来遊が期待された。しかし2012年1月～6月における1歳魚の漁況は、低調であった2011年同期の1歳魚（2010年級群）を下回り、加入量水準は高くないと判断された。2012年7月時点での加入尾数は5.8億尾と、加入量水準の低い2010年級群並と推定されている。

2012年級群（1歳魚）は今期の主体となると考えられるが、これまでの漁況はいずれの海域でもきわめて低調で推移している。各海域の当歳魚漁獲量などから計算される加入量指標値は2011年級群を下回っており、加入量水準は低いと考えられる。

2013年級群（0歳魚）は、いずれの海域でも今期の後半に漁獲対象になるが、現時点では予測根拠となる情報は得られていない。

2. 来遊量、漁期・漁場

来遊量については、海域ごとに、前期の漁況に基づき予測した。なお、本魚種は、予測期間を通じて漁獲対象となる。

(1) 北薩～土佐湾

北薩～薩南海域では、今期の1歳魚の来遊量は、前期の0歳魚の漁獲量からみて近年では最も少ないと考えられる。2歳魚も低調な漁況が続いていることから、全体として前年を下回ると考えられる。

日向灘では、前年7月～11月の漁獲量（0歳魚主体）と当年1月～5月の漁獲量（1歳魚主体）に正の相関関係がみられ、2012年7月～11月の漁況が前年同期（2011年7月～11月）を大きく下回ったことから、今期の1歳魚の来遊量は前年を下回ると予測される。

豊後水道南部西側は、前期の0歳魚を主体としたまき網漁獲量が前年を下回ったことから、今期主体となる1歳魚の来遊量は前年を下回ると予測される。

豊後水道南部東側では、前年7月～9月の0歳魚の漁獲量と、当年1歳魚の漁獲量に正の相関関係がみられ、2012年7月～9月における0歳魚の漁獲量は前年同期（2011年7月～9月）を下回ったことから、今期主体となる1歳魚の来遊量は前年を下回ると予測される。

宿毛湾・土佐湾では、まき網・定置網ともに前期の0歳魚の漁獲量が前年を下回ったことから、今期主体となる1歳魚の来遊量は前年を下回ると予測される。

(2) 紀伊水道外域～熊野灘

紀伊水道外域西部では、今期の1歳魚、2歳魚とも加入量水準は高くないと考えられ、8月以降の漁獲量の傾向から、来遊量は全体として前年並～下回ると予測される。

紀伊水道外域東部では1歳魚～3歳魚が主体となるが、1歳魚の加入量水準は高くなく、2歳魚および3歳魚の残存資源量は少ないことから、来遊量は前年並の低い水準と予測される。

熊野灘では、前期の0歳魚の漁獲量が少なく、2011年10月にみられた一時的な好漁もみられなかったことから前年を上回る来遊は見込めず、来遊量は極めて低水準であった前年並と予測される。

(3) 相模湾

伊豆東岸並びに西湘地区とも、2012年1月～11月の漁獲量は、1990年以降では最低水準で推移しており、今期も低調であった前年同期を上回る来遊は見込めない。1歳魚が主体となり、来遊量は前年並の低い水準と予測される。

マイワシ太平洋系群等の漁況予報

今後の見通し（2013（平成25）年1月～6月）

対象海域：北薩～三陸海域、道東海域

対象漁業：まき網、定置網、船曳網

対象魚群：0歳魚（2013（平成25）年級群）、1歳魚（2012（平成24）年級群）、2歳魚（2011（平成23）年級群）、3歳魚（2010（平成22）年級群）、4歳魚（2009（平成21）年級群）。年初に加齢。魚体は被鱗体長。

1. 北薩～熊野灘（まき網、定置網）

(1) 来遊量：前年を下回る。

(2) 漁期：期を通じて漁獲される。

(3) 魚体：紀伊水道外域以西では漁期前半に16cm～19cmの1歳魚主体、漁期後半に5cm～12cmの0歳魚が加入し、次第に主体となる。熊野灘では14cm～19cmの1歳魚と18cm以上の2歳以上主体。

2. 伊勢・三河湾～相模湾（まき網、定置網、船曳網）

(1) 来遊量：伊勢・三河湾では前年並。駿河湾～相模湾では前年並～下回る。

(2) 漁期：伊勢・三河湾では4月以降。駿河湾～相模湾では期を通じて漁獲される。

(3) 魚体：伊勢・三河湾では0歳魚主体。駿河湾、相模湾では14cm～18cmの1歳魚を主体に18cm以上の2歳以上が混じる。

3. 房総～三陸海域、道東海域（まき網、定置網）

(1) 来遊量：前年並。

(2) 漁期・漁場：期を通じて鹿島灘～房総海域にまき網漁場が形成される。常磐以北および道東海域ではまき網漁場は形成されない。三陸～仙台湾の定置網は2月までと5月以降。

(3) 魚体：1歳魚を主体に2歳魚、3歳魚が混じる。1歳魚は13cm～18cm、2歳魚は17cm～20cm、3歳魚は20cm～22cm。

漁況の経過（2012年8月～11月）および見通し（2013年1月～6月）についての説明

1. 資源状態

マイワシ太平洋系群の資源量は1994年に100万トンを下回り、1999年まで70万～90万トン台で推移した後、再び減少傾向となった。2002年以降は20万トン未満で推移していたが、近年は増加傾向がみられる。

2009年級群（4歳魚）は、0歳魚時点での調査船調査結果から、近年では比較的高い水準であることが示唆された。漁業においても、同年級群が0歳魚であった2009年漁期中は低調に推移したものの、1歳魚となった2010年漁期には2008年級群と共に房総～常磐海域におけるまき網で漁獲され、2年連続の好漁を支えた。2011年漁期においても房総～鹿島灘のまき網で漁獲されたが、全体に占める割合は2割以下となった。2012年漁期では房総～鹿島灘のまき網漁獲物中でもほとんど見られなくなり、今後は主たる漁獲対象とならないと考えられる。

2010年級群（3歳魚）は、0歳魚時点での調査船調査結果から、近年では極めて高い水準であることが示唆された。漁業でも、2010年秋以降の三陸・道東海域に出現した後、2011年漁期前半には房総海域におけるまき網で多獲され、その後も漁獲の主体として2011年漁期の好漁を支え、未成魚越冬群指数（千葉水総研）は5.36と、最近10年間で最大となった。2012年漁期前半における房総周辺のまき網漁獲物中の同年級群（2歳魚）の割合は尾数比で全体の6割となり、

また本年級群は秋季の道東海域における前年（約2千トン）および本年（約6千トン）の漁獲の主体となった。以上のように2010年級群は近年では非常に高い水準の年級群であり、今後も3歳魚として漁獲の対象となると考えられる。ただし、近年では3歳魚がまとまって漁獲されることがほとんど無かったことから、各海域への来遊の予測は困難である。

2011年級群（2歳魚）は、0歳魚時点での調査船調査結果から、2010年級群には及ばないものの、近年では比較的高い水準の年級群であることが示唆された。2011年漁期の春～秋にかけて、東京湾より西の海域における0歳魚としての漁獲は前年を大きく上回り、また10月以降の八戸の2そうまきで0歳魚がまとまって漁獲されるなど、太平洋沿岸域の広い範囲で加入・漁獲があった。2012年漁期前半では熊野灘でも1歳魚として漁獲の主体となった。同年級群の未成魚越冬群指数は0.65と2010年級群の1割強に留まったが、本年6月までの常磐・房総海域におけるまき網漁獲物に占める同年級群の割合は尾数比で4割弱となり、夏季以降も漁獲対象となっている。従って、漁況からも、2011年級群は比較的高い水準の年級群であると考えられる。

2012年級群（1歳魚）は、2012年5月～6月に実施された移行域幼稚魚調査（中央水研）に基づく加入量指数は1,119.4で、前年の61.6を大きく上回り、2010年の1,213.1に匹敵する値となった。その後実施された秋季北西太平洋中層トロール調査（中央水研）の結果からは、2011年級群より低いものの近年では比較的高い水準の年級群であることが示唆された。漁業では、相模湾以西の沿岸各地で0歳魚の漁獲（マシラスを含む）が前年同期を下回ったものの、11月下旬以降の常磐・房総海域では前年の0歳魚（2011年級群）を上回って漁獲されている。今後、未成魚越冬群指数等の情報も加え判断することとなるが、2012年級群は、2011年級群同様、近年では比較的高い水準の年級群であると考えられる。

2. 来遊量、漁期・漁場、魚体

(1) 北薩～熊野灘（まき網、定置網）

紀伊水道外域以西における今期前半の漁獲の主体は1歳魚である。紀伊水道外域以西の各海域では、本年8月～11月における0歳魚（2012年級群）の漁獲量が前年同期を下回っているため、1月以降の1歳魚としての来遊も前年を下回ると予測される。同海域では、例年、漁期後半に0歳魚が加入し、やがて漁獲の主体となるが、0歳魚（2013年級群）の来遊量の予測は現段階では困難である。

熊野灘では1歳魚（2012年級群）主体の南下群が漁獲対象で、本年12月までの道東～常磐・房総海域の漁況からある程度の来遊が期待されるものの、前年同期が好漁であったことから、今期の来遊量は前年を下回ると予測される。

(2) 伊勢・三河湾～相模湾（まき網、定置網、船曳網）

伊勢・三河湾で今期の漁獲の主体となるのは0歳魚で、近年の傾向から高い来遊水準は見込めず、前年並と予測される。駿河湾～相模湾では、地先における0歳魚（シラスを含む、2012年級群）の漁況が低調であり、道東～常磐・房総海域からの南下群の動向の予測も難しいことから、今期は前年並～下回ると予測される。

(3) 房総～三陸海域、道東海域（まき網、定置網）

今期は1歳魚を主体に、2歳魚および3歳魚も漁獲される。1歳魚（2012年級群）は、相模湾以西での出現が少なかった一方、秋季北西太平洋中層トロール調査等の調査船調査における採集状況および11月下旬以降の常磐・房総海域における漁況からは、2010年級群に及ばないものの近年の中では比較的高い水準であると考えられた。従って、今期の1歳魚としての来遊は、前年の1歳魚（2011年級群）並か、直近の常磐房総海域の漁況から考えれば上回る可能性もある。2歳魚（2011年級群）も近年の中では比較的資源水準が高いものの、2010年級群には及ばない

め、今期の2歳魚としての来遊は前年の2歳魚（2010年級群）を下回ると考えられる。3歳魚（2010年級群）は、近年では非常に高い水準の年級群であり、本年夏季には常磐・房総海域において2011年級群（漁獲時1歳魚）とともに漁獲の中心となり、秋季の道東海域では1993年以来18年ぶりに漁獲のあった前年（約2千トン）を上回る約6千トンの漁獲の主体となった。従って、今期の3歳魚の来遊量は、前年の3歳魚（2009年級群）を上回ると考えられる。以上のうち、1歳魚の予測の不確実性が高いが、来遊量は総じて、好漁であった前年並と予測される。

常磐・房総海域のまき網の漁場は、鹿島灘～房総海域において1月に1歳魚から3歳魚が混じって形成され、2月以降は1歳魚を主体として断続的に形成される。6月には、再び1歳魚から3歳魚が混じった漁場が形成される。

本年7月～11月における三陸から仙台湾の定置網による漁獲量は140トンで、東日本大震災直後であった前年同期の341トンを下回った。各年級群の資源水準から、常磐・房総海域と同様に来遊水準は近年の中でも高い水準と予測されるものの、本年1月が特異的に豊漁であったことから前年を下回ると予測される。

道東海域への今期の来遊は例年通りほとんど無いと考えられる。

カタクチイワシ太平洋系群等の漁況予報

今後の見通し（2013（平成25）年1月～6月）

対象海域：北薩～三陸海域、道東海域

対象漁業：まき網、定置網、船曳網

対象魚群：0歳魚（2013（平成25）年級群）、1歳魚（2012（平成24）年級群）、および2歳魚（2011（平成23）年級群）。年初に加齢。魚体は被鱗体長。

1. 北薩～紀伊水道外域（まき網、定置網）

(1) 来遊量：北薩～薩南では前年を上回る。日向灘～土佐湾では前年並～上回る。紀伊水道外域ではまとまった漁獲がない。

(2) 漁期：全期間。

(3) 魚体：11cm以下の1歳魚および12cm以上の2歳魚。

2. 熊野灘～相模湾（まき網、定置網、船曳網）

(1) 来遊量：熊野灘では前年並～下回る。伊勢・三河湾～渥美外海では前年を上回る。駿河湾～相模湾では前年並～下回る。

(2) 漁期：全期間。

(3) 魚体：伊勢・三河湾～渥美外海では12cm以下の1歳魚主体。その他の海域では10cm～13cmの1歳魚および2歳魚。

3. 房総～三陸海域、道東海域（まき網、定置網）

(1) 来遊量：常磐・房総海域では前年並～下回る。三陸では前年を上回る。

(2) 漁期・漁場：まき網は鹿島灘～房総海域で全期間。三陸の定置網は2月までと5月以降。道東の定置網ではほとんど漁獲がない。

(3) 魚体：2月まで12cm以上の2歳魚主体、3月以降9cm～11cm台の1歳魚主体。

漁況の経過（2012年8月～11月）および見通し（2013年1月～6月）についての説明

1. 資源状態

カタクチイワシ太平洋系群の推定資源量は1998（平成10）年から2010（平成22）年まで70万トン～150万トンで推移し、2011（平成23）年の資源量は59万トンと推定された。資源水準は過去30年で中位、動向は5年間で減少傾向である。本系群は漁場が形成される沿岸域だけでなく黒潮親潮移行域まで広く分布する。

2011年級群（2歳魚）は、2011年の秋季北西太平洋中層トロール調査（中央水研、9月～10月）において10cm未満の魚体で漁獲されており、有漁点CPUEは2001年以降で最高であった。一方、秋季の道東海域の流し網調査（釧路水試）や道東まき網の漁獲物では0歳魚は見られず、房総海域の夏秋季の2そうまきでは前年を上回ったが高水準ではなかった。前年11月～本年6月までの常磐房総海域での12cm未満（1歳魚主体）の漁獲量は47千トンで、獲り控えによる漁獲減少の影響があったにも関わらず、前年（24千トン）、前々年（38千トン）を上回った。また、本年の秋季北西太平洋中層トロール調査においては10cm以上の魚体として漁獲され、有漁点CPUEは高い水準ではないものの過去3年を上回った。以上の状況から、2011年級群は最近10年の中で見れば中水準と考えられる。

2012年級群（1歳魚）は、シラス漁況は春季に全体として不漁であったが、夏季以降に多くの海域で好漁に転じ、海域によっては引き続き秋季に未成魚として好漁となった。一方、0歳魚を主たる対象とする夏秋季の房総沿岸2そうまきは前年を下回った。沖合域では、本年の北西太平

洋サンマ資源調査（東北水研、6月～7月）における10cm未満の推定現存尾数は2001年以降で最低で、秋季北西太平洋中層トロール調査でも2001年以降で2004級群に次いで低い水準であると示唆された。以上のように、2012年級群のうち沖合発生群は低水準と考えられるが、夏季以降の沿岸発生群は前年を上回っているため、現段階では総合的な水準判断が困難である。

2. 来遊量、漁期・漁場、魚体

(1) 北薩～紀伊水道外域（まき網、定置網）

北薩～薩南海域では、同海域における9月以降の漁況が比較的好調であったことから、来遊量は不漁の前年を上回ると予測される。日向灘～土佐湾では、資源水準が高ければ道東～常磐・房総海域より南下回遊する成魚大型群（2歳魚主体）が来遊し好漁となる。今期の2歳魚

（2011年級群）の資源水準は、前年の2歳魚（2010年級群）より高いと推定されるため、同群の来遊はある程度期待される。一方、夏季中心（例年では6月から）に漁獲される沿岸発生群

（1歳魚主体）については、同海域における本年夏秋季のシラスや未成魚の漁況から、全体として前年並～上回る水準と考えられる。以上から、来遊量は総じて前年並～上回ると予測される。紀伊水道外域では未成魚・成魚は主たる漁獲対象ではないため、まとまった漁獲は無い。

(2) 熊野灘～相模湾（まき網、定置網、船曳網）

熊野灘における今期の漁獲対象は、道東～常磐・房総海域より南下回遊する成魚大型群（1歳魚および2歳魚）である。本年12月には、房総海域に2011年級群（年明け2歳魚）主体の成魚大型群が来遊しているため、熊野灘への来遊も見込まれる。しかし、熊野灘においては前年同期が過去最高水準の好漁であったため、今期の来遊量は前年並～下回ると予測される。

伊勢・三河湾～渥美外海では、今期は1歳魚（2012年級群）が漁獲の主体で、本年夏秋季のシラスおよび10月から漁獲対象となった未成魚が好調であったことから、前年を上回ると予測される。駿河湾～相模湾では、今期の漁獲の主体は道東～常磐・房総海域より南下回遊する2歳魚および1歳魚で、秋季北西太平洋中層トロール調査による分布状況や直近の常磐・房総海域の漁況から、来遊量は前年並～下回ると予測される。

(3) 房総～三陸海域、道東海域（まき網、定置網）

本年秋季の道東のまき網による漁獲量は2.2千トンで、前年（3.4千トン）を下回った。漁獲物の体長は不明であるが、三陸～道東海域流し網調査（釧路水試）の結果から、例年通り1歳魚が主体と考えられる。秋季北西太平洋中層トロール調査では、東経158度～170度の親潮域にカタクチイワシが広く分布し、推定0歳魚（2012年級群）のCPUEは2001年以降で2004年に次いで2番目に低い水準で、推定1歳魚（2011年級群）は高い水準ではないものの過去3年を上回った。

2011年11月～2012年6月の常磐・房総海域における漁獲量（千葉県、茨城県、福島県の計）は67千トンで、前年（62千トン）を上回ったものの1999年以降の動向の中では前年に次ぐ低い水準であった。ただし、1そうまきの努力量が減少していたことに注意を要する。同海域の漁獲物中では1歳魚と想定される12cm未満の小型魚が漁獲物重量で7割を占めており、前年同期の推定1歳魚を上回った。従って、常磐・房総海域に年明け2歳魚として来遊する2011年級群は、前年の2歳魚（2010年級群）より高い水準にあると考えられる。一方、2012年級群は秋季北西太平洋中層トロール調査において低い水準であったことや、0歳魚を漁獲する秋季の房総沿岸2そうまきが前年を下回ったことから、常磐・房総海域に年明け1歳魚として来遊する2012年級群は、前年の1歳魚（2011年級群）を下回ると考えられる。以上から、来遊量は総じて前年並～下回ると予測される。

仙台湾～三陸南部の定置網では、2月まで南下群が、また5月以降に常磐・房総海域からの北上群が来遊し、例年であれば10cm～13cm台の1歳魚、2歳魚が漁獲される。今期は2歳魚（2012年級群）が前年の2歳魚を上回る水準と予測されることから、来遊量は前年を上回ると予

測される。

道東海域への今期の来遊は例年通り少なく、定置網でのまとまった漁獲は無い。

ウルメイワシ太平洋系群等の漁況予報

今後の見通し(2013年1月～6月)

対象海域：北薩～熊野灘

対象漁業：まき網、定置網、棒受網、多鈎釣

対象魚群：0歳魚(2013(平成25)年級群)、1歳魚(2012(平成24)年級群)、2歳魚(2011(平成23)年級群)。

(1) 来遊量：北薩及び薩南海域、日向灘では前年を上回る。豊後水道南部では前年並。宿毛湾・土佐湾では前年並～下回る。紀伊水道外域西部では前年並。紀伊水道外域東部・熊野灘では前年を下回る。

(2) 漁期：全期間。

(3) 魚体：期の前半では1歳魚が中心、期の後半には0歳魚が加入する。

漁況の経過(2012年8月～11月)および見通し(2013年1月～6月)についての説明

1. 資源状態：

産卵量(日向灘～潮岬沖、前年9月～8月)から資源状態を判断した。2012年産卵期の産卵量は98兆粒となる見込みであり、2011年度の87兆粒より多かった。1978年以降の産卵量の水準を高位・中位・低位に三分割すると、2012年度は高位にあると考えられた。また、最近5年間の産卵量は増加傾向にあると判断した。これらから、系群の資源水準は「高位」、動向は「増加」と判断した。なお、2012年11月までの海域全体の漁獲量は4万2千トンであり、1997年以降で最高であった2011年同期の3万9千トンを越えた。

2. 来遊量、漁期・漁場：

今期は1歳魚(2012年級群)主体の漁況になることから、前期(0歳魚時)の漁況等に基づき来遊量を予測した。今期の後半には0歳魚(2013年級群)も漁獲対象になるが、現時点では予測根拠となる情報は得られていない。

北薩～薩南海域では、前期の8月以降に2012年級群主体に好調な来遊があったことから、今期も1歳魚主体に前年を上回る来遊があると考えられる。

日向灘では、1月～5月に主体となる1歳魚(2012年級群)の来遊量は、隣接海域の前期の漁況等から、前年を上回ると予測した。

豊後水道南部西側では、2012年級群が漁獲の主体であった2012年4月～11月のまき網漁獲量は2011年同期を上回ったことから、今期も1歳魚(2012年級群)の来遊量が多いと考えられる。前年が好漁であったことから、前年並と予測した。

豊後水道南部東側では、2011年7月～11月における2011年級群の来遊は好調で、続く2012年1月～6月も好調となった。2012年7月～11月における2012年級群の来遊も好調であることから、前年並と予測した。

宿毛湾・土佐湾では、今期の主体となる2012年級群の漁況経過から、好漁であった前年並～下回る予測した。

紀伊水道外域西部では、標本漁協の漁獲量データから、来遊水準が好転してきたとは考

えにくいため、前年並と予測した。

紀伊水道外域東部では、2012年11月までの棒受網の漁獲量から判断すると、2012年級群の来遊は前年を下回っている可能性が高い。従って、1歳魚（主にまき網）は前年を下回ると予測した。

熊野灘では、冬季の漁獲量は少なく、前年夏秋季の漁獲動向を反映しないため、例年冬季には熊野灘から逸散すると考えられる。しかし、2012年春季には特異的に1歳の産卵群が来遊した。これには暖水波及などの海況条件が大きく関与すると推察されるが、海況予報では熊野灘の高水温傾向は予測されておらず、前年のような産卵群の来遊は想定しにくい。以上のことから来遊量は前年を下回ると予測した。

参 画 機 関

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 釧路水産試験場 函館水産試験場	和歌山県水産試験場
地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	徳島県立農林水産総合技術支援センター 水産研究所
岩手県水産技術センター	高知県水産試験場
宮城県水産技術総合センター	愛媛県農林水産研究所 水産研究センター 栽培資源研究所
福島県水産試験場	大分県農林水産研究指導センター 水産研究部
茨城県水産試験場	宮崎県水産試験場
千葉県水産総合研究センター	鹿児島県水産技術開発センター
東京都島しょ農林水産総合センター	地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所 水産研究部 水産技術センター
神奈川県水産技術センター	香川県水産試験場
静岡県水産技術研究所	社団法人 漁業情報サービスセンター
愛知県水産試験場 漁業生産研究所	(取りまとめ機関)
三重県水産研究所	独立行政法人 水産総合研究センター 中央水産研究所